

事故映像とHazardTouchを用いた 危険予測訓練ツールの職業運転者向け運用事例

島崎敢* 中村愛** 石田敏郎*

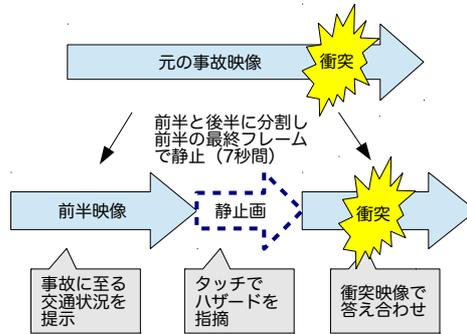
*早稲田大学人間科学学術院 **早稲田大学大学院人間科学研究科

HazardTouchの概要

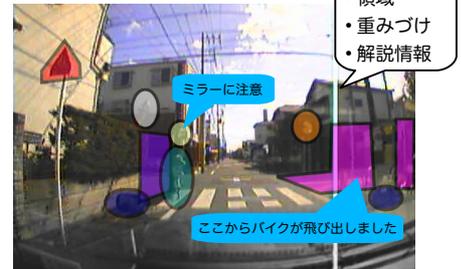
HazardTouchとはなんですか？



タブレット端末と事故映像を組み合わせたドライバ向け危険予測力訓練ツールです。
ハザードを予測してタッチすることで危険予測力が高まります。



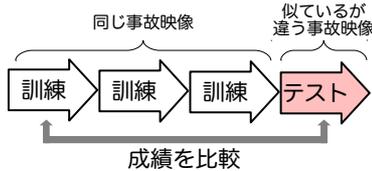
静止画フレーム



何を、どのタイミングでタッチしたかを記録

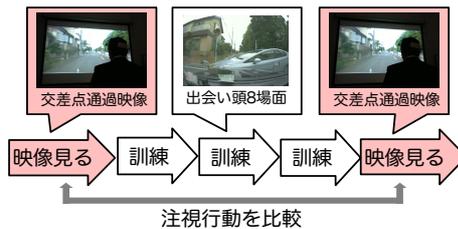
関連の先行研究

先行研究1



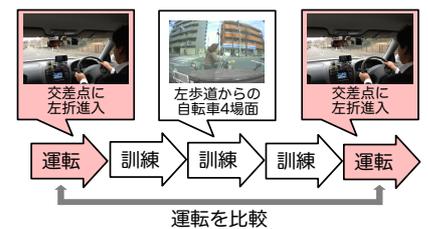
結果：衝突対象発見率上昇
反応時間短縮

先行研究2



結果：交差点死角への注視増加
初回注視が早まる

先行研究3



結果：一時停止率上昇・速度低下
確認行動の増加

目的

先行研究で訓練効果が見られたので、タクシー会社でプロドライバに使用してもらい、使用状況や効果を検証する

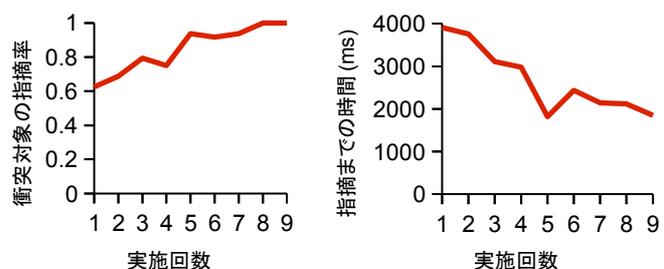
方法

タクシー会社の待合室にiPad10台を設置、経営者・運行管理者と協力し訓練を促した。8場面x4シナリオ

基本的な結果

分析期間：'13/4/10~5/20
対象ドライバ：605名
総実施回数：1104回
照合可能回数：958回
1人あたりの訓練回数
0回(214人)~29回
平均1.58回 中央値3回
1日あたりの実施回数
6回(3人)~73回(59人)
平均23.4回(17.7人)
中央値21回(16人)

最多訓練回数者の成績変化



課題

- 回数の個人差大→報奨等の動機づけが必要
- 個人特定不能のケースあり→ID入力方法の改善
- 訓練をやれば効果あり→事故率の変化を検証